65 オカミミガイ　（オカミミガイ科）　兵庫県ランク：A

Ellobium chinense　環境省ランク：VU

種の概要

三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、九州の内湾環境下にある川の汽水域に分布する。汽水域の高潮帯付近にある主にヨシ帯に生息し、枯葉や漂着物などの下に隠れている。瀬戸内海中・西部や九州での密度は決して低くないが、分布域の東側では絶滅が危惧されている。殻長30～40mm程度の長卵形で、殻頂は侵食され尖らない。殻は厚く外唇は肥厚し、内唇に目立つ1歯がある。淡い黄褐色から栗色の殻皮を有するが、老成個体では侵食される。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○	○		○	○		○	○

県内分布

高砂市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。2004年1月に加古川の干潟でわずか10個体前後が確認されたのみである。内2個体が標本試料として西宮市貝類館と大阪市立自然史博物館に所蔵され、残る個体は確認直後に現地へ放されたものの、2004年秋の大型台風以降、幾度の調査にもかかわらず再確認できていない。確認個体はいずれも老成個体であったことから、産地としては衰退状況であったと考えられる(松村,2007)。ただし、岡山県の潮下帯では、健全な産地が残っていることから、将来的に、幼生の漂着により産地の復帰、あるいは新産地が見つかる可能性はある。

保護上の留意点

成貝は潮位の高い場所に生息するが、若齢個体は成貝よりも低い潮位帯に生息するので潮位の広い範囲でヨシ帯が存在すること、また、それが陸域にまで及ぶような広域なヨシ帯であることが必要であることから、生息可能な加古川や千種川においては陸側に残るヨシ帯も存続させ、今後の本種の定着を見込んだ環境を保全すること。

写真提供：松村勲

写真提供：松村勲

【執筆者】　増田修